



2021/07/29 第 2914 回例会
一本日はプログラム盛り沢山ー
風間 常樹彦ガバナー補佐 表敬訪問
高尾茂典ガバナー公式訪問
Web会議等について説明



齊藤正明さんポールハリスフェロー授賞
ー2000 弗 2 回目ー

熱海豪雨災害見舞金協力拠出（一人千円）有りました



新入会員様入会式
（株）松尾 代表取締役：松尾 泰一 様
元会員：松尾 亮一様の後継者でご入会
紹介者：猪又 一義 増強委員長

お若い仲間の ご入会
益々クラブ躍動！



本日のゲスト卓話
梅海岳友会長 靄本 修一 様（元学校長歴任：市教育委員会委員）
「梅海新道開通 50 周年を祝って」ーアルプスと海をつなぐ夢の登山道ー
随所に小野健様のお話と素晴らしい映像資料で貴重な卓話拝聴しました



糸魚川ロータリークラブ 卓話

2021年7月29日（木） 会場：ヒスイ王国館
靄本 修一

テーマ 「梅海新道開通 50 年を祝って！」

～ アルプスと海をつなぐ夢の登山道 ～

1 はじめに

自己紹介

2 糸魚川世界ジオパークと梅海新道の位置

3 梅海新道の山岳・自然賛歌

★梅海新道の開拓の歴史（梅海新道誕生ものがたり・小野健さんと仲間たち）

準備 1961年～ 「さわがに山岳会」の結成（7名）
第1期工事 1966年～犬ヶ岳を目指して
第2期工事 1968年～朝日岳（吹上のコル）を目指して
※作業の中断 <犬ヶ岳直下に「梅海山荘」を立てる>
第3期工事 1970年～親不知 1971年（昭和46）6月4日開通

★開通後の維持管理 朝日岳・吹上のコル 2227m～天陰親不知 0m 約 27 km

さわがに山岳会
「ベニズアイ・カタクリクラブ」「ドンガラ山の会」「共栄電工（株）」
「梅海山遊同人」 4団体が縦走路を4区間に分割して登山道整備
2020年4月～「梅海岳友会」の設立・始動（若手12人）※現在14人

★梅海新道の魅力 ー北アルプスと日本海を結ぶ夢の登山道ー

標高差 < 0m↔3000m >
地質↔地形↔植生に多様な変化
高山植物の宝庫 <朝日岳～長梅山～アヤマ平～黒岩平>
※白馬連山高山植物帯：国の特別天然記念物に指定されたエリア 1922年
夢の実現 情熱と行動力 チームワーク 人の役に立つ 継続は成果なり

4 おわりに

★郷土に遺された「宝」を守り、次世代へつなぐ・・・

登山道・山小屋を守る
各イベントの開催（学習会、提供資料の充実、仲間を募る）
子どもたちへ

<小野健さんの銘板>

2016年5月29日除幕

(場所：親不知コミュニティー広場)

梅海新道開設者

小野 健 氏

経 歴

- 1932年 福島県いわき市生まれ
- 1956年 早稲田大学理工学部鉱山学科卒 (工学博士)
電気化学工業株式会社青海工場原石部入社
- 1961年 さわがに山岳会結成
- 1971年 『山族野郎の青春』出版
- 1972年 山と溪谷社山岳賞受賞
- 1979年 青海町議会議員 (~1995年)
- 1985年 新潟日報社文化賞受賞
- 1988年 『梅海新道その自然』出版
- 2000年 環境庁長官賞
- 2001年 『梅海新道開拓40周年の回想』出版
- 2003年 山と溪谷社山岳環境賞受賞
- 2004年 NHK 地域放送文化賞受賞
- 2005年 藍綬褒章受章
- 2007年 『糸魚川の自然を歩く』出版
- 2010年 『梅海新道ものがたり』『梅海新道を拓く』出版
- 2014年 没 享年82歳

1962年から10年の歳月をかけ、親不知から朝日岳までの約27kmを結ぶ「梅海新道」を切り開いた。

「梅海新道」の開設により、0mの海から3,000mのアルプスまでが繋がった縦走路は、地形・地質・植生等自然資源の宝庫でもあり、多くの登山者が訪れている。

糸魚川市



梅海新道 開拓の歴史

- ・出会い 強烈な感動 小野健氏 1956年青海町の企業に就職
4月・黒姫山山頂に立ちて
*「アルプスと海をつないだら面白いコースが...
いつか拓きたい...!」*その後、夢実現の構想を練る
- ・1961年(S36)「さわがに山岳会」設立 7名 (職場の仲間)
- ・準備 黒姫山の開拓 (黒姫小屋建設、新道開設)
- ・第1期 1966年～犬ヶ岳 (鋸・鉋・鍬の重労働)
- ・第2期 1968年～朝日岳間 ※国有林関係承認
作業の中断: 69年犬ヶ岳直下に「梅海山荘」建てて
1970年に朝日岳の麓、吹上のコルまでつなぐ
- ・第3期 1970年～親不知間伐採 ※1971(S46年)年6月4日開通

開通後の維持・管理

朝日岳の麓・吹上のコル～親不知間 約27km

- ・1971年～ さわがに山岳会
- ・1980年～ 新たな仲間を願う
 - ◆ 「ベニズアイ・カタクリクラブ」の仲間
 - ◆ 「ドンガラ山の会」 犬ヶ岳～黒岩山間
 - ◆ 「共栄電工KK」 親不知～坂田峠間
 - ◆ 「梅海山遊同人」 白鳥山～犬ヶ岳間
- ・2020年4月～「梅海岳友会」の設立(若手12名)
- ※2021年6月4日 全線開通50周年記念日

アルプスと海をつなぐ夢の登山道

- 1日目 糸魚川駅～大系線～白馬駅・猿倉...
大雪渓...**白馬山荘(泊)**・**白馬岳(2932m)**
- 2日目 白馬岳...雪倉岳...朝日岳...
朝日小屋(泊)
- 3日目 朝日小屋...朝日岳...黒岩山...サワ
ガニ山...犬ヶ岳...**梅海山荘(泊)**※無人小屋
- 4日目 梅海山荘...白鳥山...尻高山...入道山...
...**親不知・日本海(0m)**



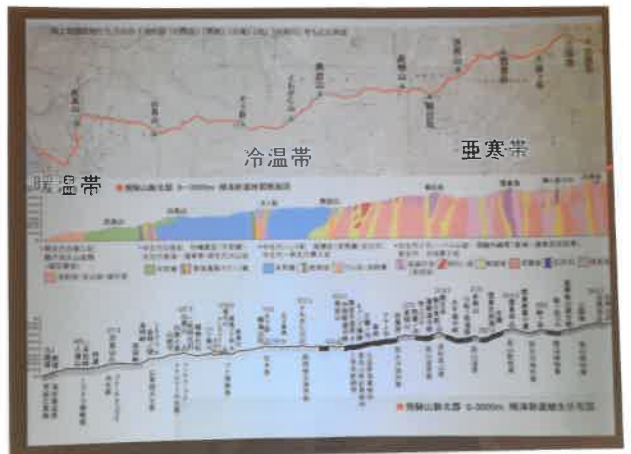
1971年8月4日 開通記念縦走

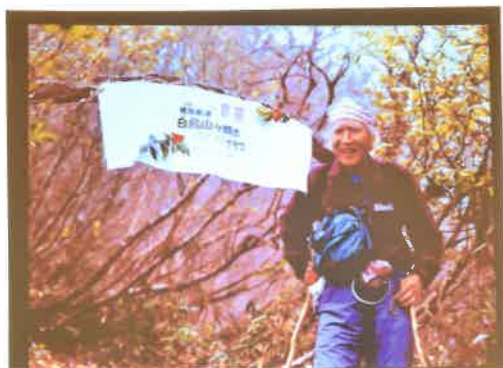
梅海新道の魅力

- 北アルプスと日本海を結ぶ登山道
 - ・**標高差 < 0m ↔ 3000m >**
 - ・**地質、地形、植生に多様な変化**
 - ・黒岩平～アヤマ平～長梅山～朝日岳
高山植物の宝庫(北アルプス随一)
 - ※糸魚川世界ジオパーク・山岳ジオトレイル
- 登山を愛する人たちの憧れのルート
 - ・いつかは踏破したい! ・トレイルランナー
 - ※夢の実現 情熱 チーム力 継続の価値

世界ジオパーク: 特色ある24エリア

糸魚川市内に広がる
山岳ジオトレイル・梅海新道の位置





3



国の特別天然記念物





登山道崩落

2020,7,18発



菊石山 化石を探す



田沢地区公民館
柵海新道登山

2021,6,6



開通50年の山開き 6月6日



日本海へ→

吹上のコル:ここから柵海新道へ



夢や目標
時間と仲間
情熱と行動力
★楽しみを!★
あきらめない
人の役にたつ
継続は成果なり

先達 小野 健 様 勇姿



霧本修一先生の卓話 熱心に聴講

雲上の縦走路の防人に

故 小野 健 様の偉大なご功績偲ばれます！

糸魚川 来年開通50年の梅海新道

梅海新道は同市親不知から富山県境・朝日岳までの約27キロを結び、全行程踏破には山小屋での2、3泊を要する超健脚者向けルート。1971年に同市の登山家、故小野健さん率いる「さわがに山岳会」が10年かけて開削した。

沿道には貴重な山野草が生ずる黒岩平のほか、アンモナイトの化石が出土した菊石山があり、糸魚川世界ジオパークのジオサイトにもなっている。

急峻な登山道の整備や、白鳥山と犬ヶ岳の2カ所にある山小屋管理は、市内外の山岳会や企業ボランティアらに支えられてきた。

さわがに山岳会解散後、長く維持管理の中心になってき

た「カタクリクラブ」の小野茂信副会長(79)は「春の小屋明け、夏のやぶ刈り、秋の小屋じまい。どれも多くの人たちの協力で続けてこられた」と振り返る。

毎年、柏崎市や上越市の山岳会など協力団体が草刈りで汗を流している一方、社員研修を兼ねてボランティアを続けてきた企業が撤退。登山道整備の担い手確保が課題になっていた。

そんな中、梅海新道をこよなく愛する糸魚川市内の登山愛好家が昨秋から、カタクリクラブの後継団体となる組織づくり動き出した。集まったのは40〜60代の公務員や会社員、自営業者の男女12人。山岳救助に精通する複数の人材も名を連ねている。

先輩格のカタクリクラブとの

会合を重ね、開削の祖・小野健さんと家族ぐるみで交友があった同市の元教員、靄本修一さん(65)を会長に選んだ。靄本会長は「先達の意志を受け継ぎ、梅海の登山道と山小屋を次世代につなぐたい」と抱負を語る。

活動初年度は、新型ウイルスの影響で、主催イベントや草刈りの全面中止を協力団体に要請する苦渋の決断を迫られた。しかし、メンバーは開通半世紀となる来年を見据えた準備に着手している。

山岳

会のホームページを開設して登山道の魅力を発信。6月中旬には犬ヶ岳まで登り、山小屋の点検に当たった。

靄本会長は「来年は梅海新道にとって大きな節目。まずはしっかり組織の足場を固め、関係機関や協力団体と連携しながら地域貢献に努めていきたい」と力を込めた。問い合わせは梅海岳友会のホームページ、<https://tsugami.info/>



日本海から北アルプスにつながる糸魚川市の登山道「**桐海新道**」の維持管理を担う**山岳会「桐海岳友会」**が今春、誕生した。新型コロナウイルスの感染拡大で活動第1弾になるはずだった山開きは中止になったが、これまでの管理団体



と引き継ぎ作業を行うなど静かに始動した。2021年は新道開通から50年。メンバーたちは「**雲上の縦走路**」の新たな防人役に意欲を燃やしている。

(糸魚川支局長・大日方英樹)

“雲上の縦走路” 桐海新道 新たな防人役 誕生！



① 親不知コミュニティ広場のウォルター・ウエストン像前に集まった桐海岳友会のメンバー
② 犬ヶ岳山頂の山小屋「桐海山荘」で資材の点検を行う桐海岳友会とカタクリクラブ関係者。いずれも糸魚川市

第11回

梅海新道、50年のものがたり

北アルプス 梅海山荘 霧本修一

長大な北アルプスの北端、梅海新道。
日本海へと没する稜線に登山道を拓き、
山小屋を守ってきた登山者たちと、
豊かな自然が紡ぐ50年のものがたり。

2

2021年6月4日、梅海新道が全線開通して50年を迎えました。開設者のリーダー、故・小野健さん

(14年逝去)が、職場の青海・黒姫山より見た朝日岳から日本海につながる山稜に感動し、縦走路の開拓を夢見て「さわがに山岳会」を結成したのが1961年。以後、66年に梅海新道の伐開作業に着手し、幾たびかの苦難を乗り越えて、71年に梅海新道(朝日岳鞍部の吹上のコルから天険親不知の日本海までの約27kmの登山道)が開通したのです。費用はすべて自費自弁。行動開始から60年、開通から半世紀の夢と苦難の「梅海新道ものがたり」が、小野さんと岳友らによって綴られながら今日に至っています。

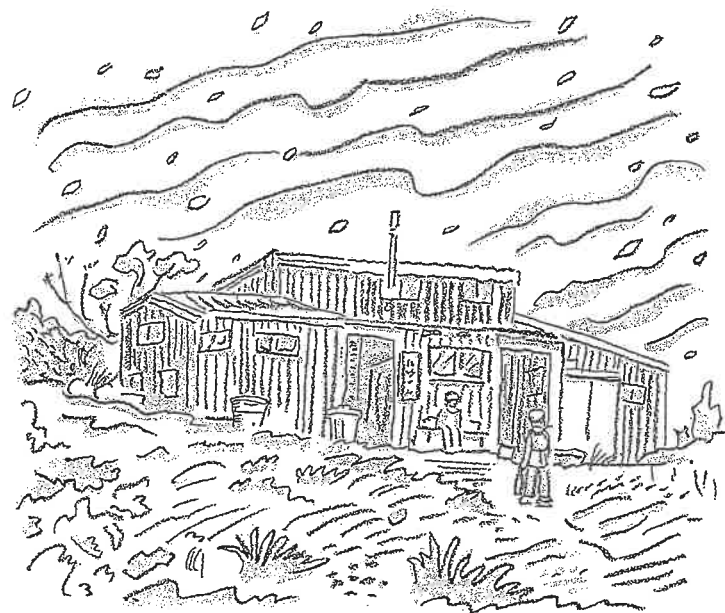
梅海新道の間中に位置する犬ヶ岳。その頂上直下に立つのが梅海山荘です。最初の山小屋は全線開通の2年前に建てられ、伐開作業のベースになりました。約2tの資材の荷上げや建築はすべて会員の力で成し遂げたのです。今ではとても考えられない難行であり、

目標実現に懸ける不撓不屈の精神に驚嘆し感動するのは決して私一人ではないと思います。

梅海新道が徐々に登山者に知られるようになると、夏シーズン中に小屋を利用する縦走者が増えて、混雑することもしばしば。当時の小野さんたちは、この状況を見据え、資金を貯めては自力で増改築を実行し、その後は町や市の援助を得て16回に及ぶ山小屋の改良を重ねました。現在は5室40人収容の快適な山小屋として、登山者に開放されています。登山道の手入れと同様、先達がこの山小屋をいかに大切に育ててきたかがわかります。

犬ヶ岳(梅海山荘)の自慢は山頂からの山岳展望です。ここは、南北に延びる起伏の大きい飛驒山脈の北延主稜に位置し、北に日本海、南に北アルプスが望めます。まさにアルプスと海をつなぐ梅海新道の核心部からの眺望です。季節や天候により、春の訪れや紅葉・初冬(初雪)などの標高差による景観の違いや雲上に浮かぶ縦走路などの展望も楽しめます。北東方面の日本海に佐渡や弥彦山、東

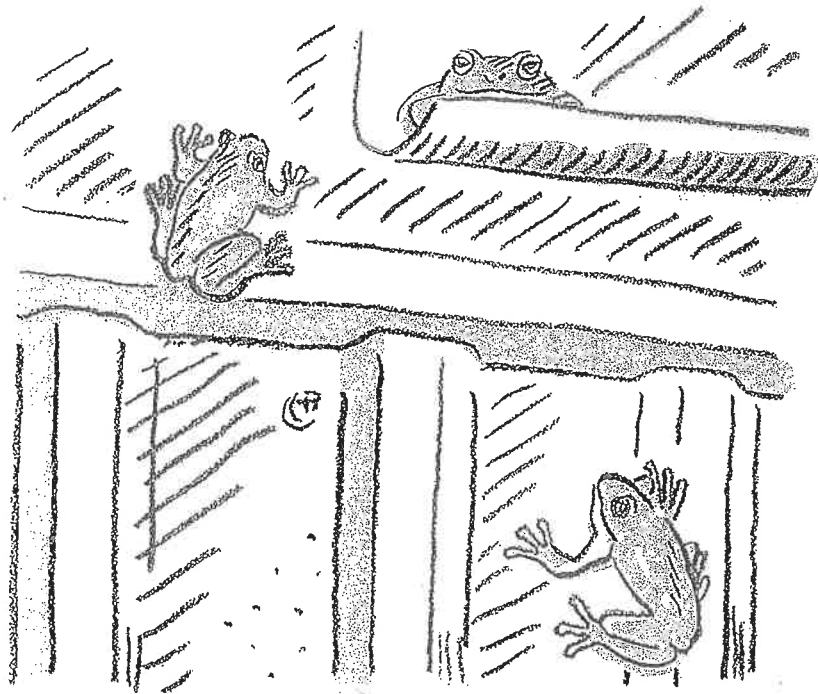
飛驒山脈最北エリア、犬ヶ岳(1593m)の頂上直下に立つ。大縦走路の間中にあり、登山者に開放された無人小屋。小屋からは日本海に沈む美しい夕景や漁火を展望できる。小屋は増改築を重ね、採光窓にステンダグラスを取り付け、宿泊者は毛布やマットが利用できる。



方面には頸城連山の名峰などが一望できるのです。

加えてすばらしいのは、晴れの日の夕景です。眼前に広がる富山湾と、能登半島先に沈む夕日は絶景そのものです。また、暗くなるに輝く満天の星の下、日本海に浮かぶ漁火や小さく光る街の明かりが俯瞰できて、北アルプスの高山にはない異色のロケーションが広がります。

梅海山荘にはいくつかの工夫が施されています。そのなかに、雨水を溜める仕掛けがあ



ります。屋根の端に小さな凹形の雨どいが何か所か付けてあります。梅海山荘の周辺には水場がなく、宿泊者は大ヶ岳南側の北又の水場か、北側の黄連の水場から持参することになります。しかし、緊急時の対応として、雨水を溜めておくタンクが設置されているのです。水タンクは、夏山シーズン前の小屋開け作業で屋外に設置され、初冬の小屋閉め作業で小屋の中に収納されます。小屋の背後の水タンクの水は煮沸すれば飲用が可能です。小屋北側の入り口には、水洗トイレ用のポリタンクを設置し、屋外のトイレ場までのわずかな勾配を利用して、スタップの流水シャワーに使っています。また、小屋の入り口左側

には蓋のないポリタンクが設置してあります。登山者に靴や雨具などの汚れを落としてもらうための雨水です。いずれも小屋を整備してきた先輩が、知恵や技を出し合い、創意工夫してきた賜物ばかりです。

数年前、こんな出来事に遭遇しました。7月、梅雨明け前に登山道整備のために仲間と宿泊した時のことです。終日雨となった夕食後、雨音の中、カエルの鳴き声が小屋のあちこちから聞こえて、にぎやかでした。外に出て、鳴き声がある方をライトで照らしてみると、なんとモリアオガエルのオスが小屋の壁面を登攀中です。ほかにも数匹のオスが競うように壁を登ろうとしています。なぜ上をめぐすのかと不思議に思い、壁の上部を照らすと、体の大きなモリアオガエルのオスがじっとしています。雨どいの端でオスが来るのを待っていたのです。鳴き声はオスの求愛発声であり、メスが産卵を始めるると一匹のメスに4匹のオスが乗って小競り合いをしていました。小屋の周辺には池などはありません。雨水を溜めてある山小屋の水タンクが、池の役割を担っていたのです。

翌朝、タンクの上部を見ると、雨どいの端に白い大きな泡巣がくっついていました。卵がオタマジャクシになるころ、真下の水タンクに落ちて生命がなくなるのでしょうか。それ以後、私はこのタンクを「カエルの水タンク」と呼んでいます。かつての小野さんたちもドラム缶をヘリで上げて、ドラム缶風呂に入ろうと水を溜めたところ、モリアオガエルに占拠されて、やむなく

カエルに譲ったというエピソードが記録に残されてきました。梅海山荘の水タンクとモリアオガエルの共存のものがたりは、かなりの年月にわたって続いてきたのです。それは、山の自然のなかの生き物と人間の共存の姿でした。それ以来私は、梅雨時期の入山時やドラム缶のオタマジャクシ観察が楽しみになっています。

昨年4月、梅海新道を守る新たな担い手として梅海岳友会（14人）を設立しました。始動後の7月、登山道の一部崩落で通行止めへの対応を余儀なくされ、初年度は復旧申請の1年でした。しかし、仲間のチーム力発揮で今年6月3日に迂回路を拓き、6日には開通50周年記念山開きと白鳥山登山を実施することができました。

梅海新道エリアは糸魚川世界ジオパークにも指定され、学術的な価値も有しています。特に地質では黒岩山から白鳥山までの登山道は、中生代ジュラ紀来馬層堆積岩からなり、植物化石や貝化石などを拾うことができます。また、夏はゴールの日本海で海水浴を楽しむなど、ユニークで魅力の多い縦走路です。

今後も、開通60年をめざし、先輩が拓き守ってきた夢の登山道と素敵な山小屋を継いでいく梅海新道ものがたりを、岳友会メンバーと共にしるしていきたいと思っています。



つるもと・しゅういち／新潟県出身。20代半ばに小野健さんに出会って影響を受け、以後四季を通じた登山を継続。現在、梅海岳友会の代表として登山道整備と小屋管理に奮闘中。毎年、末に岳友と山岳スライド報告会を行なっている。